

2017年3月期 決算説明資料

株式会社豆蔵ホールディングス
(東証第一部 証券コード：3756)



■ 第1部 連結決算概要

- 2017年3月期 通期連結決算概要
- 2018年3月期 通期会社計画概要

■ 第2部 当社グループの経営と事業状況

- コーポレートメッセージ
- 主な事業領域
- これまでの歩み
- 当社の全体戦略と重点施策
- M&A戦略（当社グループの結成）
- 会社概要
- 事業概要

第1部 連結決算概要

2017年3月期連結決算概要

2017年3月期決算連結損益(2016年3月期 – 2017年3月期)



(百万円)	16/3月期		17/3月期		前期比	
	通期	構成比	通期	構成比	増減額	増減率
売上高	22,717	100.0%	22,092	100.0%	△ 625	-2.8%
情報サービス事業	20,665	91.0%	20,514	92.9%	△ 151	-0.7%
ビジネス・ソリューション	14,962	65.9%	15,119	68.4%	156	1.0%
エンジニアリング・ソリューション	5,466	24.1%	5,076	23.0%	△ 390	-7.1%
教育ソリューション	236	1.0%	318	1.5%	81	34.7%
産業機械事業	2,051	9.0%	1,577	7.1%	△ 474	-23.1%
売上総利益	5,964	26.3%	6,010	27.2%	45	0.8%
販売費および一般管理費	4,127	18.2%	3,891	17.6%	△ 236	-5.7%
営業利益	1,837	8.1%	2,119	9.6%	281	15.3%
経常利益	1,821	8.0%	2,109	9.5%	287	15.8%
当期純利益	927	4.1%	1,383	6.3%	455	49.0%

豆蔵ホールディングス

情報サービス事業

ビジネス・ソリューション部門
売上構成比 68.4%

株式会社豆蔵
ビジネス・ソリューション事業部門
株式会社オープンストリーム
ジェイエムテクノロジー株式会社
IT事業本部
株式会社ネクストスケープ
株式会社フォスターネット
株式会社メノックス
ニュートラル株式会社
シアルシステム株式会社 ※
株式会社エヌティ・ソリューションズ

エンジニアリング・ソリューション部門
売上構成比 23.0%

株式会社豆蔵
エンジニアリング・ソリューション事業部門
株式会社コーワメックス
センシングスジャパン株式会社

教育ソリューション部門
売上構成比 1.5%

株式会社豆蔵
教育ソリューション事業部門

産業機械事業

売上構成比 7.1%

ジェイエムテクノロジー株式会社
産業機械事業本部

(2017年3月期実績)

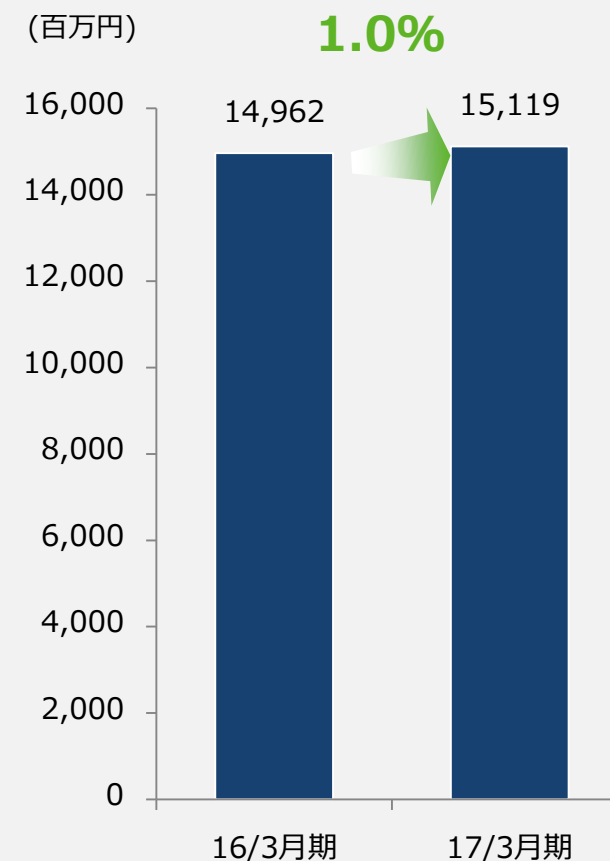
※ シアルシステム株式会社は、平成29年4月1日付で同じく当社の連結子会社であるジェイエムテクノロジー株式会社と合併いたしました。

決算のポイント

ビジネス・ソリューション部門

- 一般事業法人向け基幹システム刷新にかかる基盤構築案件は、保険事業法人向け大型基盤システムの標準化支援案件、大手建機メーカーの次期システムのグランドデザイン支援業務継続して堅調
- クラウドサービスやビッグデータ関連は、順調に継続受注。新規顧客開拓に努めている
- 音楽・映像配信ソリューションでは、独自のDRMエージェントの販売が堅調
- ECサイト構築やスマートデバイスとの連携は、従来通り堅調です。

ビジネス・ソリューション部門売上高推移



決算のポイント

エンジニアリング・ソリューション部門

- 自動車関連向け技術支援は引続き堅調で、AUTOSARや安全系の研究開発支援、モデルベースシステムズエンジニアリング支援業務は引続き好調
- 自動運転のシミュレータ開発請け負う等、業務分野拡大
- 車故障診断サービスやドラブレコーダーの販売が開始
- ハードウェア開発を含めた産業用ロボット向け技術支援分野は、堅調に推移

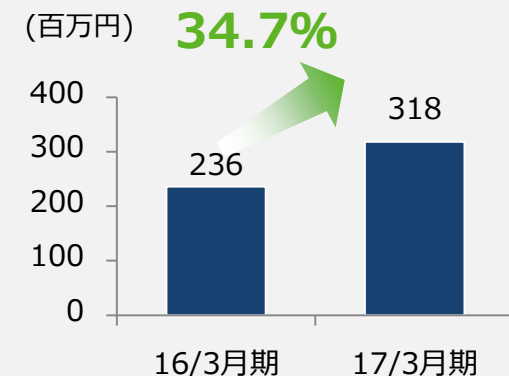
教育ソリューション部門

- システム事業会社向け新人教育が例年通り堅調
- アジャイル開発、反復型開発理論の実践コースなど、近年コースウェアの刷新に力を入れた口座が好調
- 大型基幹システムの刷新案件で、標準化支援・参加技術者に対する教育訓練業務をバックで提供、継続好調

エンジニアリング・ソリューション部門売上高



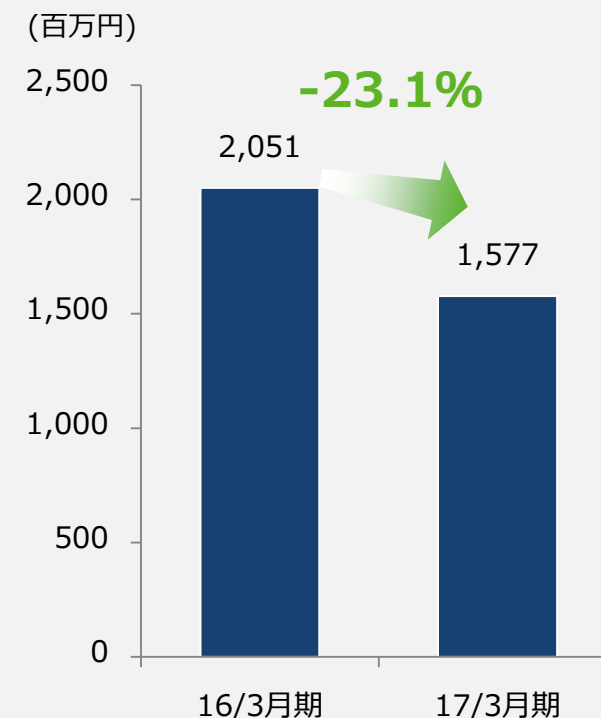
教育ソリューション部門売上高



決算のポイント

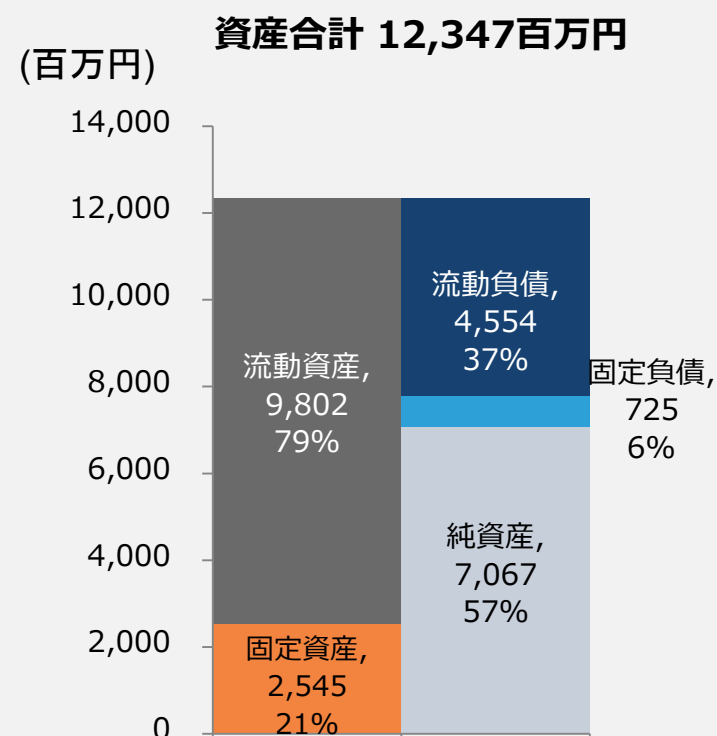
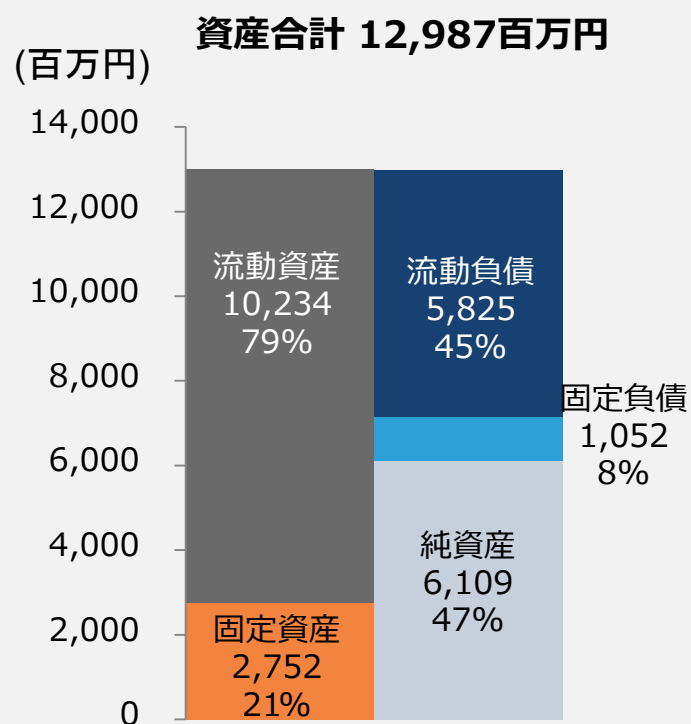
- アプライドマテリアルズジャパン及びエーエスエムエル・ジャパンからの受注確保に努めている
- 国内半導体メーカーからの半導体製造装置の修理、部品の販売、ファクトリーオートメーション化のソフトウェア開発に注力
- 半導体製造装置の保守・メンテナンス業務、3Dプリンターのメンテナンス案件は、堅調に推移
- 工場のホストコンピューターと製造装置をオンライン化し、制御や解析を行う自社開発ソフトウェア(J+BRIDGE)及び製造装置や各種センサー等のデータを収集/保管/分析を行う自社開発データロガーの機能を強化した新データロガーは、好評を得ている
- 中古半導体製造装置の選定、据付サービスについては、ひと段落

産業機械事業売上高



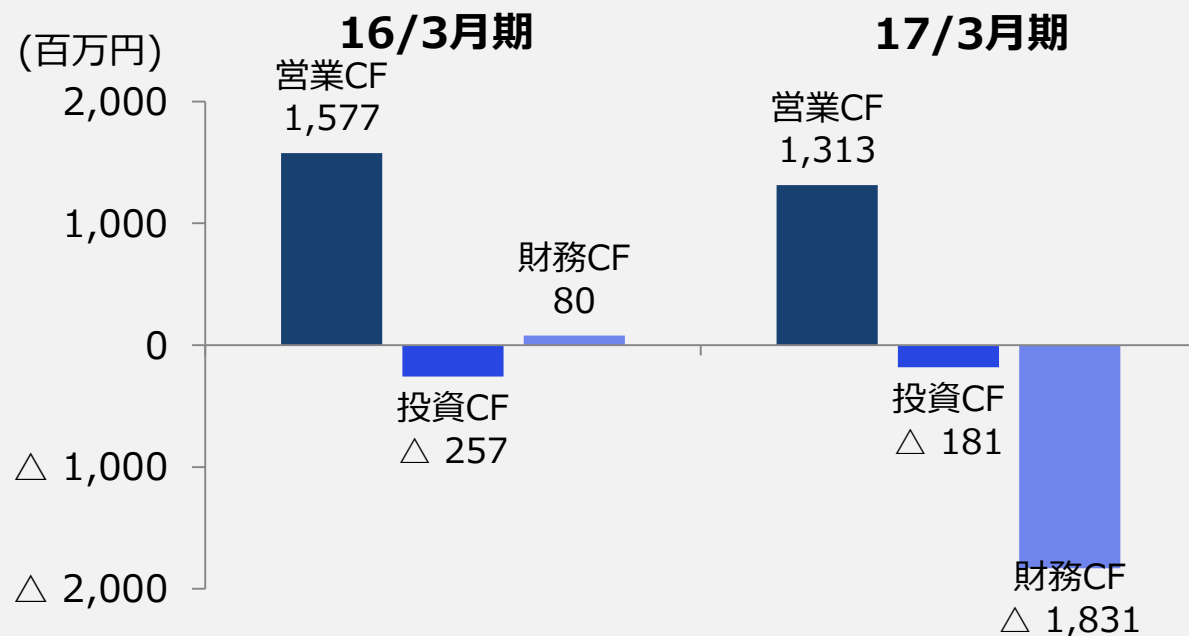
	16/3月期 期末
自己資本比率(%)	39.6
有利子負債(百万円)	3,823

	17/3月期 期末
自己資本比率(%)	57.2
有利子負債(百万円)	2,467



自己資本比率(39.6% → 57.2%)改善

キャッシュ・フローの概要



- 営業CF：純利益増加、法人税支払増
- 投資CF：子会社株式取得による支出
- 財務CF：短期借入れ返済による支出

17/3月期 期末時点

「現金及び現金同等物」： 5,104百万円
「有利子負債」： 2,467百万円
「現金及び現金同等物」と「有利子負債」の
差額： 2,636百万円

(百万円)	16/3月期	17/3月期	前期比	
	期末	期末	増減額	増減率
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,577	1,313	△ 264	-16.7%
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 257	△ 181	75	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	80	△ 1,831	△ 1,912	-

第1部 連結決算概要

2018年3月期 通期会社計画概要

2018年3月期 連結業績予想の概要

(百万円)	16/3月期	17/3月期	18/3月期	前期比	
	実績	実績	予想	増減額	増減率
売上高	22,717	22,092	23,000	907	4.1%
営業利益	1,837	2,119	2,200	80	3.8%
経常利益	1,821	2,109	2,180	70	3.3%
当期純利益	927	1,383	1,400	16	1.2%
配当金(円)	9.00	12.00	12.00	0	0.0%

次期の連結売上高は230億円、営業利益は22億円、親会社株主に帰属する当期純利益は14億円、増収増益を見込んでおります。

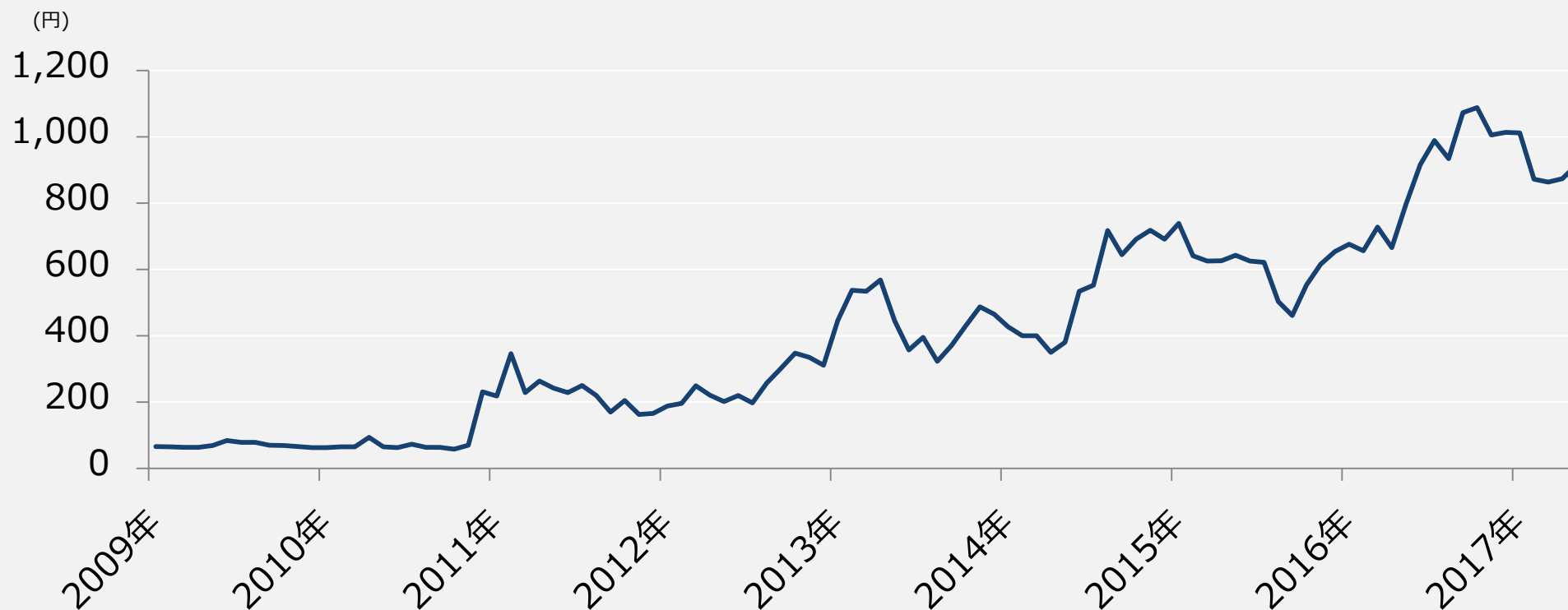
各種指標見通し(連結)

(百万円)	16/3月期	17/3月期	18/3月期
	実績	実績	予想
売上高	22,717	22,092	23,000
売上総利益	5,964	6,010	-
営業利益	1,837	2,119	2,200
経常利益	1,821	2,109	2,180
当期純利益	927	1,383	1,400
純資産	6,109	7,067	-
期末株価(円)	728	863	(※) 915
時価総額	14,045	16,746	17,755
配当金(円)	9.00	12.00	12.00

(百万円)	16/3月期	17/3月期	18/3月期
	実績	実績	予想
売上総利益率	26.3%	27.2%	-
営業利益率	8.1%	9.6%	9.6%
経常利益率	8.0%	9.5%	9.5%
当期純利益率	4.1%	6.3%	6.1%
ROE	19.6%	22.7%	-
EPS(円)	52.59	73.83	74.74
PER(倍)	13.8	11.7	12.2
BPS(円)	288.84	370.03	-
PBR(倍)	2.52	2.33	-
配当利回り	1.2%	1.4%	1.3%
配当性向	17.1%	16.3%	16.1%

※ 2018年3月期の期末株価は、参考値として2017年5月11日の株価の終値を記載しております

(参考)株価チャート



※ 2013年10月1日付で1株→200株の株式分割を行ったため、
分割前の株価は、分割が行われたものと仮定して算定しております

第2部 当社グループの経営と事業状況

「私たちは 困難な山の頂きを 目指す会社です」

私たち「豆蔵ホールディングス」は、
コンピュータソフトウェア技術の最先端を
リードする技術集団です。

最先端の技術を実践に取り入れるには
勇気と創意工夫が必要です。

時には大きな困難にも直面します。

しかし、その困難を乗り越え、
これまで多くのお客様のプロジェクトを
成功に導いています。

リスクを取って挑戦し続ける会社。
それが我々グループ企業の信念です。

成長市場の情報システムを支える技術集団



自動車

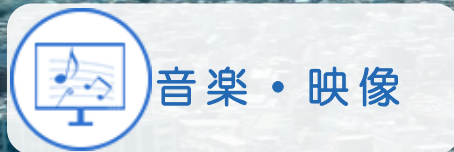


ロボット



半導体

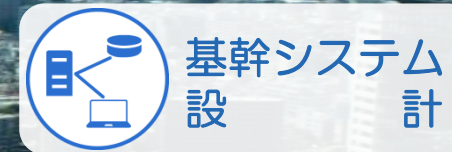
～ソフトウェア技術の最先端をリードする～
豆蔵ホールディングスグループ



音楽・映像



IoT
ビッグデータ

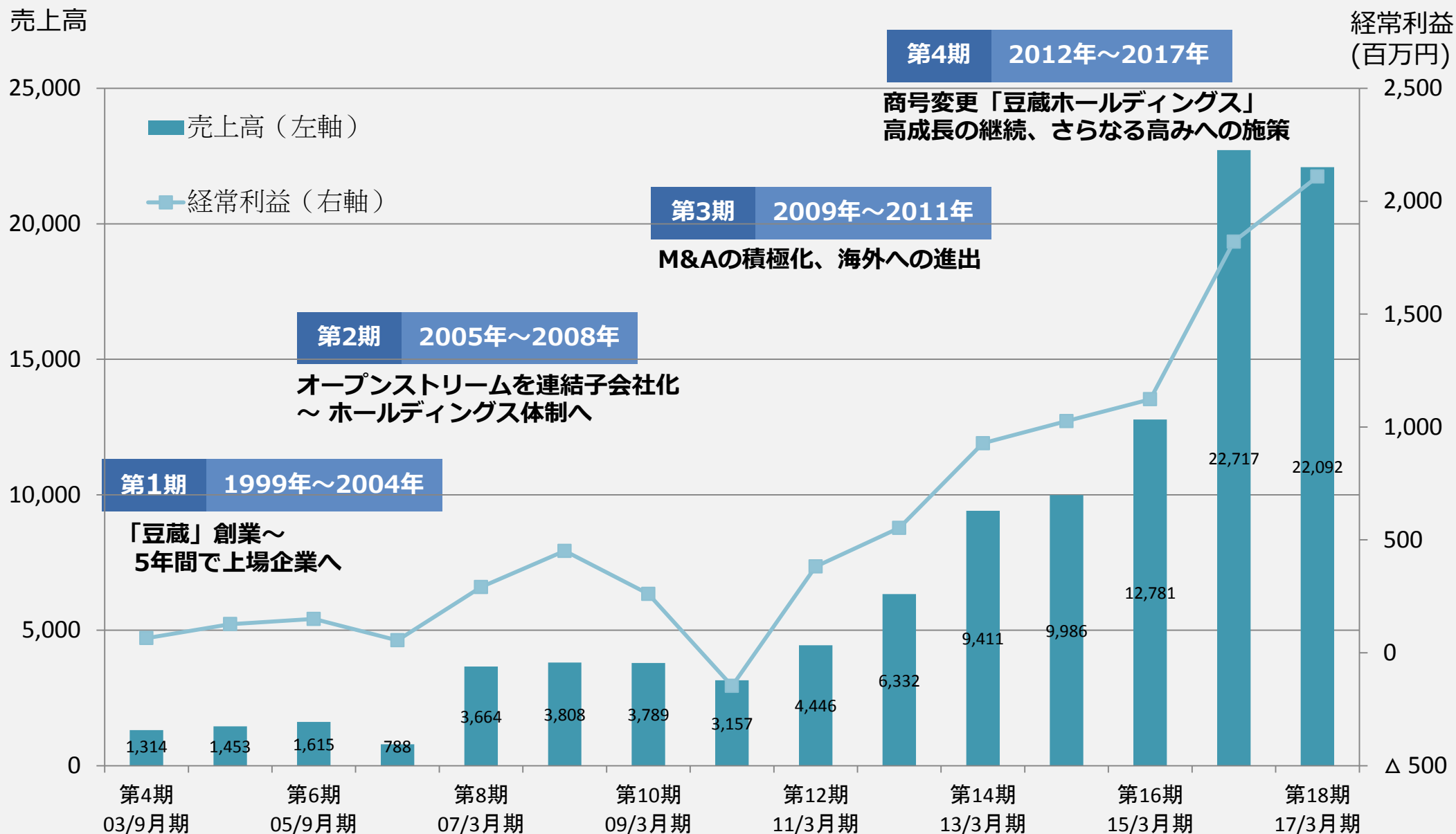


基幹システム
設計

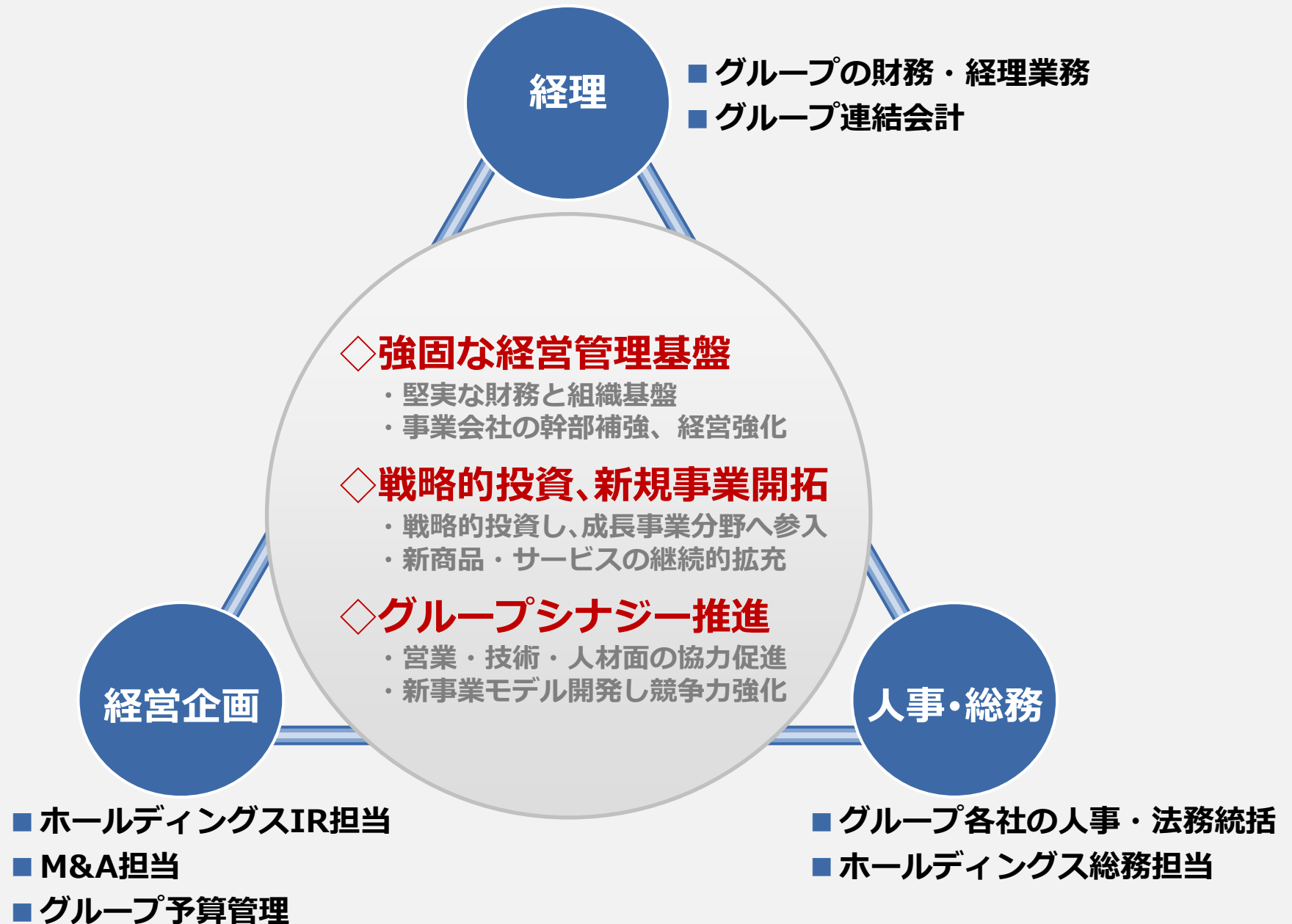
豆蔵ホールディングスグループは、生活スタイルの変化や産業プロセスの革新に直結するシステム構築と運用を担っております。この領域は、未知の仕組みの創造や様々なシステムとの連携が必要であり、技術的に非常に難易度も高く、お客様からの要望も厳しいものとなっております。

当社グループは、最先端技術に精通しているとともに、顧客指向の開発姿勢をもったエンジニア集団であるからこそ、このような難しい領域においてご評価を頂き、高い成長率へと繋がっております。

これまでの歩み



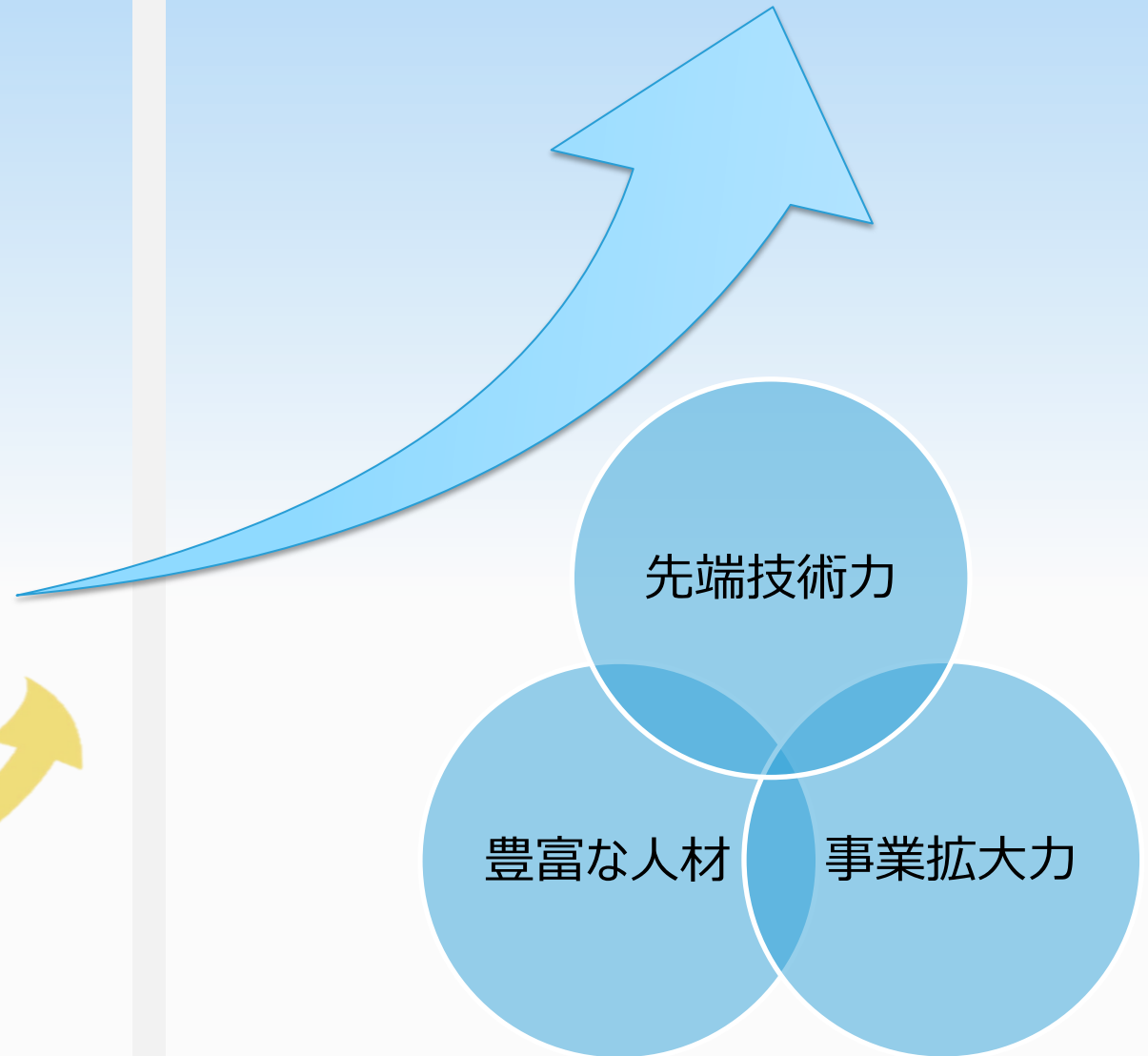
注：決算期変更のため、第7期(06/3月期)は6ヶ月決算



三つの経営方針



三つの強みでビジネスを最大化



1. 引続きグループ内の経営、営業、人材の資源共有体制を強化、シナジー効果を追求

2. グループ内再編による全体経営の合理化・効率化

3. 技術力による付加価値の最大化、高利益体質への転換

自社データ統合ツールによる高付加価値ビジネスモデルの構築

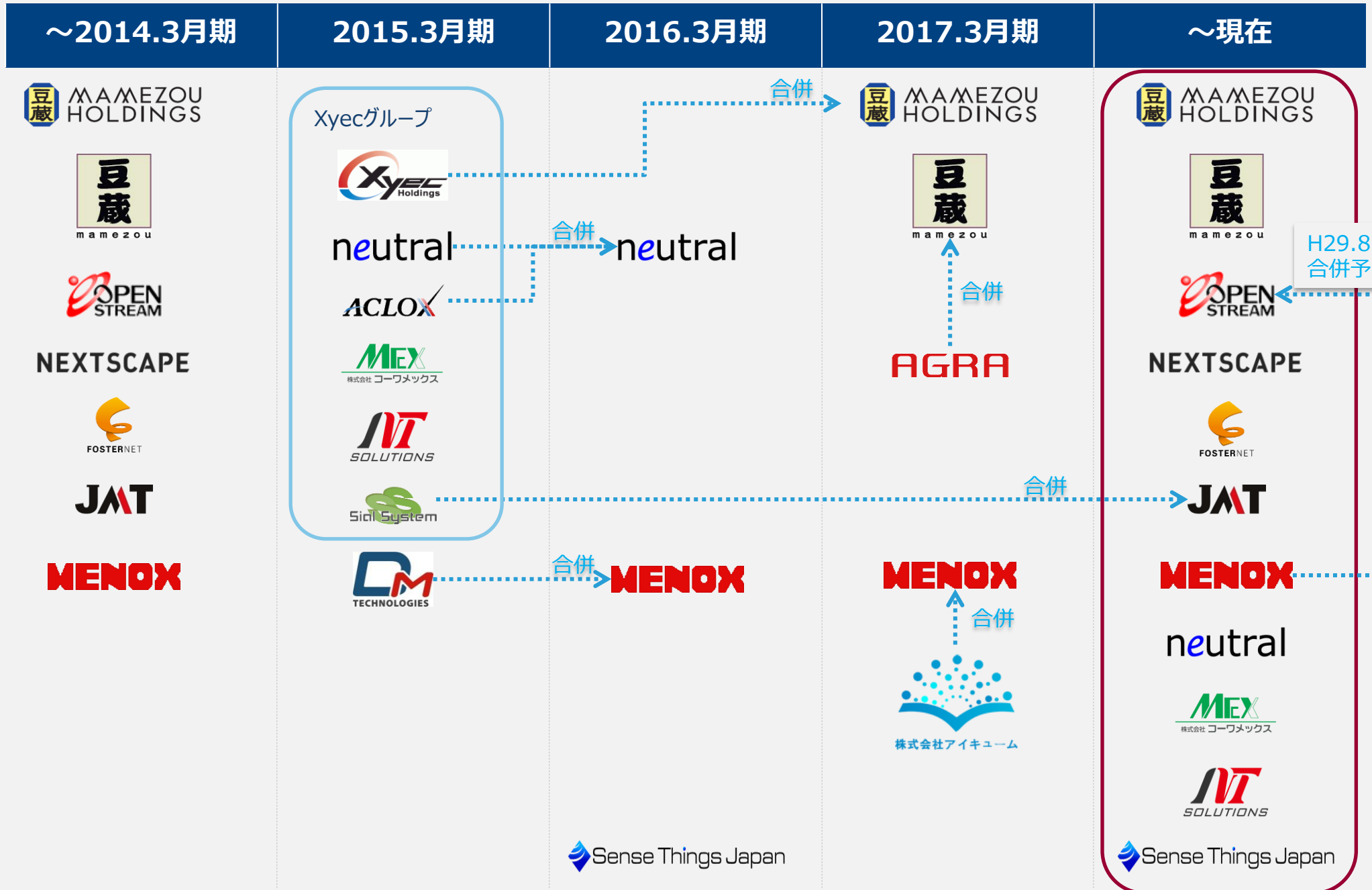
農業データ連携基盤(データプラットフォーム)構築

IoT、AI、ビッグデータ関連に引続き投資

自動車、ロボット関連ビジネスの拡大

4. 大学、開発パートナー、業界団体との連携強化

M&A戦略 (当社グループの結成)



H29.8.1
合併予定

商号	株式会社豆蔵ホールディングス
本店所在地	東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル 34階
設立	1999年11月
資本金	874百万円
発行済株数	19,404,600株(自己株式 321,505株含む)
従業員数	連結合計 2,119名 (2017年4月1日時点)

役員構成	代表取締役社長	荻原 紀男
	取締役	佐藤 浩二
	取締役	南口 和彦
	取締役	小林 学
	取締役	船越 稔
	社外取締役	鈴木 邦男
	社外取締役	吉田 和正
	常勤監査役	立野 満夫
	常勤監査役	堀切 進
	常勤監査役	安立 欣司
監査役	山本 英二	

会社概要(主要グループ企業)



企業形態	ロゴ	社名	グループ参加
持株会社	MAMEZOU HOLDINGS	豆蔵ホールディングス	1999.11
主要 グループ会社	豆蔵 mamezou	豆蔵	2006.10
	OPEN STREAM	オープンストリーム	2006.3
	NEXTSCAPE	ネクストスケープ	2009.12
	FOSTERNET	フォスターネット	2009.12
	JAT	ジェイエムテクノロジー	2011.11
	MENOX	メノックス	2014.3
	neutral	ニュートラル	2015.3
	MEX 株式会社 コーワメックス	コーワメックス	2015.3
	NT SOLUTIONS	エヌティ・ソリューションズ	2015.3
	Sense Things Japan	センスシングスジャパン	2015.7

会社概要(グループ主要企業の事業比較)



センシングスジャパン株式会社

- クラウド連携型自動車故障診断機
- ドライブレコーダー 開発販売



株式会社Iメティ・ソリューションズ

- ERP/BIソリューション
- Elizea勤怠管理システム



株式会社 コーワメックス

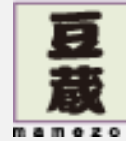
株式会社コーワメックス

- 自動車部品・ECU開発
- 航空機設計
- CAE解析



ニュートラル株式会社

- CAD/CAM/CAE/3D開発
- UNIMEX生産・販売システム



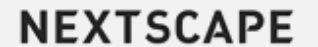
株式会社豆蔵

- 業務システム/組込システムコンサルティング
- 技術者育成支援業務
- 情報化戦略策定支援業務



株式会社オープンストリーム

- オープンアーキテクチャを基盤技術とするソフトウェア開発
- Biz/Browserを基とした業務システム構築



株式会社ネクストスケープ

- 動画配信事業プラットフォーム提供
- インターネットマーケティング

株式会社フォスターネット

- ITビジネスプロデュース
- IT系人材紹介



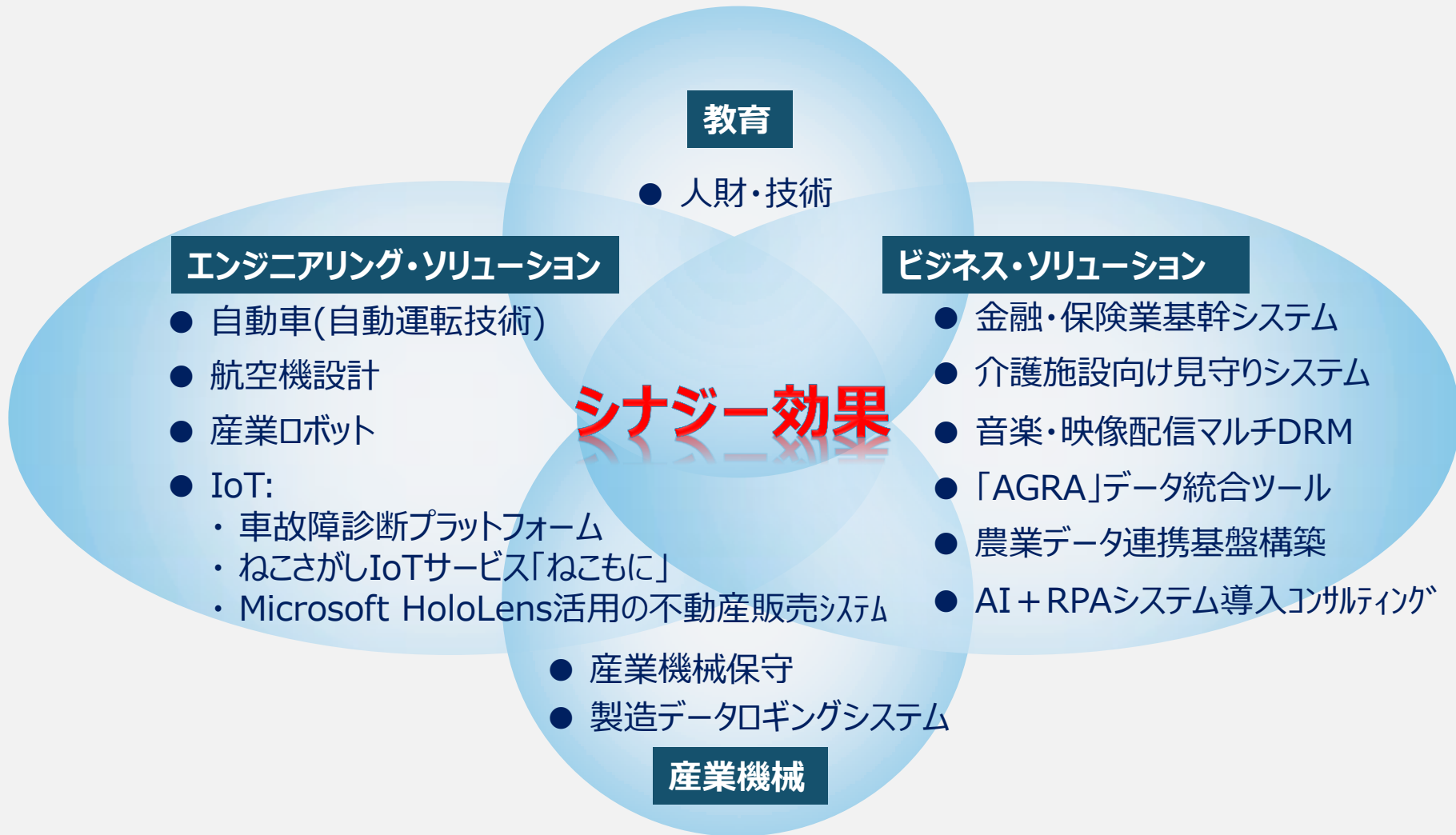
ジェイエムテクノロジー株式会社

- ITインフラ、システム開発
- ITプロダクト
- 半導体技術サービス



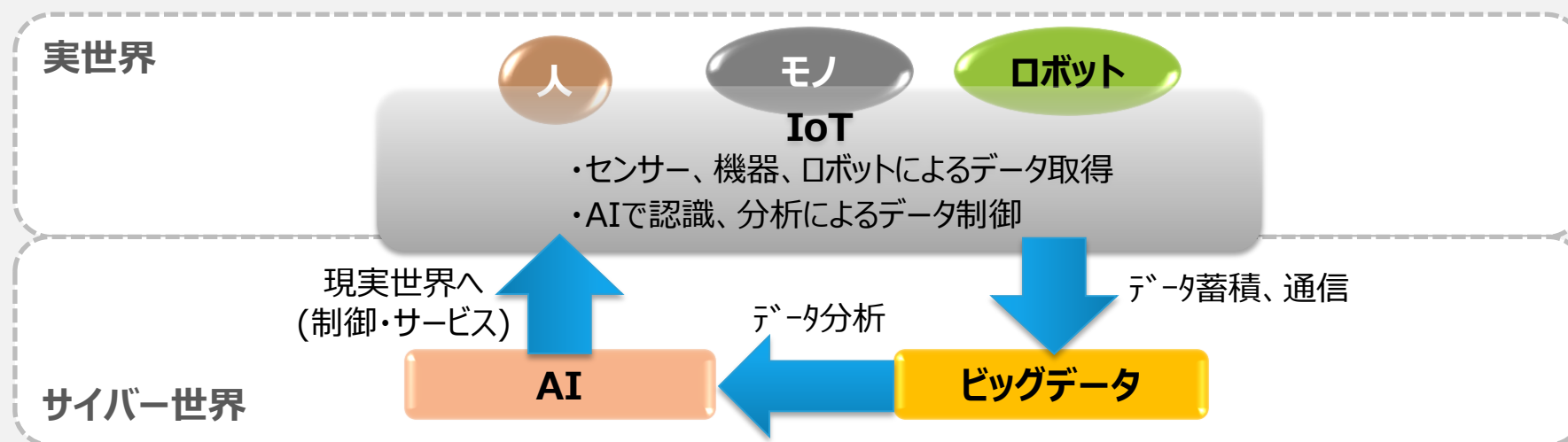
株式会社メノックス

- Drupal,Android,クラウド技術
- 技術支援サービス



グループ内保有する高い技術力、人財、営業資源、プロジェクト管理力を横断的且つ有機的に関わら
合うことで、事業のシナジー効果を最大に創出する

【データ社会における大量データの取得、分析、実行の循環】



【当社の中心となる事業とデータ社会の関連付け】

当社の中心となる事業	ロボット	IoT	ビッグデータ	AI
自動車関連開発		✓	✓	✓
産業ロボット開発	✓			
基幹システム設計			✓	
「AGRA」仮想データ統合ツール			✓	✓
「AI+RPA」システム導入コンサルティング				✓
産学連携	✓		✓	✓
SaaS型マルチDRM(音楽配信DRM)			✓	
農業データ連携基盤構築		✓	✓	
製造データロギングシステム		✓	✓	
ねこさがし IoT サービス「ねこもに」		✓		
マイクログラ HoloLens活用の不動産販売システム		✓		

■ 自動車関連

- ◆ 国産車載ベースソフトウェア「QINeS® BSW ver1.0」に参画
豆蔵ほか車載IT企業5社は、2015年10月にAUTOSARに準拠した、
独自開発のリアルタイムOSを搭載した国産車載ベースソフトウェア
「QINeS® BSW ver1.0」の構築し、サービス提供開始
- ◆ ADAS(先進運転支援システム)
- ◆ 自動運転
- ◆ コネクテッドカー
- ◆ 車載開発モデリング(MBSE、MDD)の知見
- ◆ ツールベンダーと連携強化
- ◆ 安全系モデリング手法は大学と連携

※1 AUTOSAR : 車載ソフトウェアの標準規格

※2 BSW : Basic Software (ECUのOS、ドライバ、ミドルウェアにあたる部分)

QINeS : SCSKでは、車載新規事業をECUソフトウェアの高品質革新「High-Quality Innovation in the ECU-based Software」から文字を取り、QINeS(クインズ)と名付けています。クオリティとソフトウェアをイノベーションでつなぎ、自動車産業を支える意思を込めています。

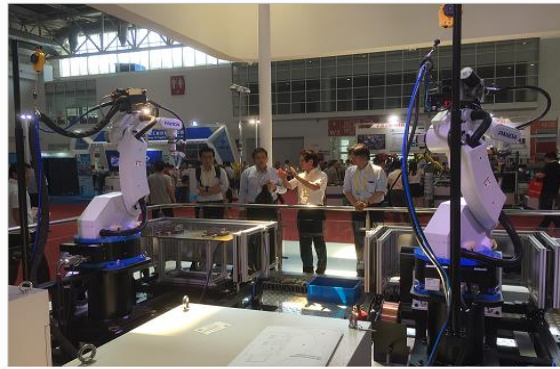


画像認識
AI、IoT
クラウド
ビッグデータ

ADAS、自動運転、コネクテッドカー中心の開発を達成するためには、豆蔵のモデリング技術(MBSE、MDD)が必要不可欠。AGRA(オントロジー)を組み込みのIoTや車載のコネクテッドカー等に適用していくことで、先端技術力をビジネス化する。

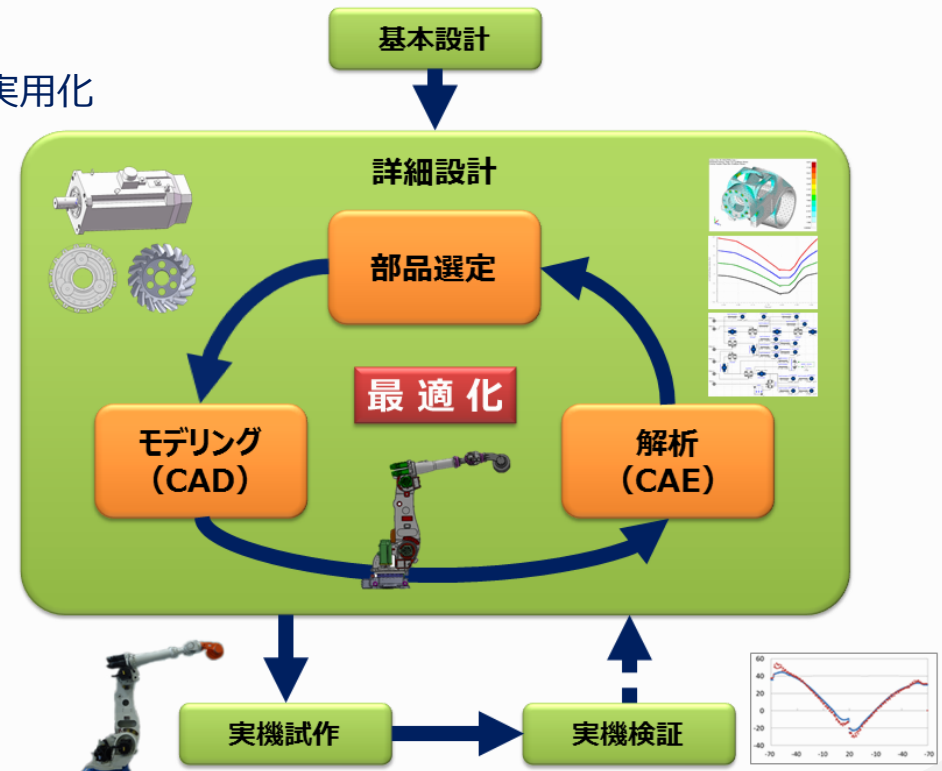
■ 産業ロボット

- ◆ 産業用6軸ロボット制御と操作システム
- ◆ ロボットアーム開発期間短縮手法
産業用ロボットアームの開発期間を短縮するための設計手法の実用化にいたったプレスリリースは、2017年3月10日農工大と共同発表
- ◆ MBSE手法の適用(モデルベースシステムエンジニアリング)



大型(165kg可搬)、中型(20kg可搬)
の実機試作および実機検証

ビデオ1



画像認識
AI
クラウド

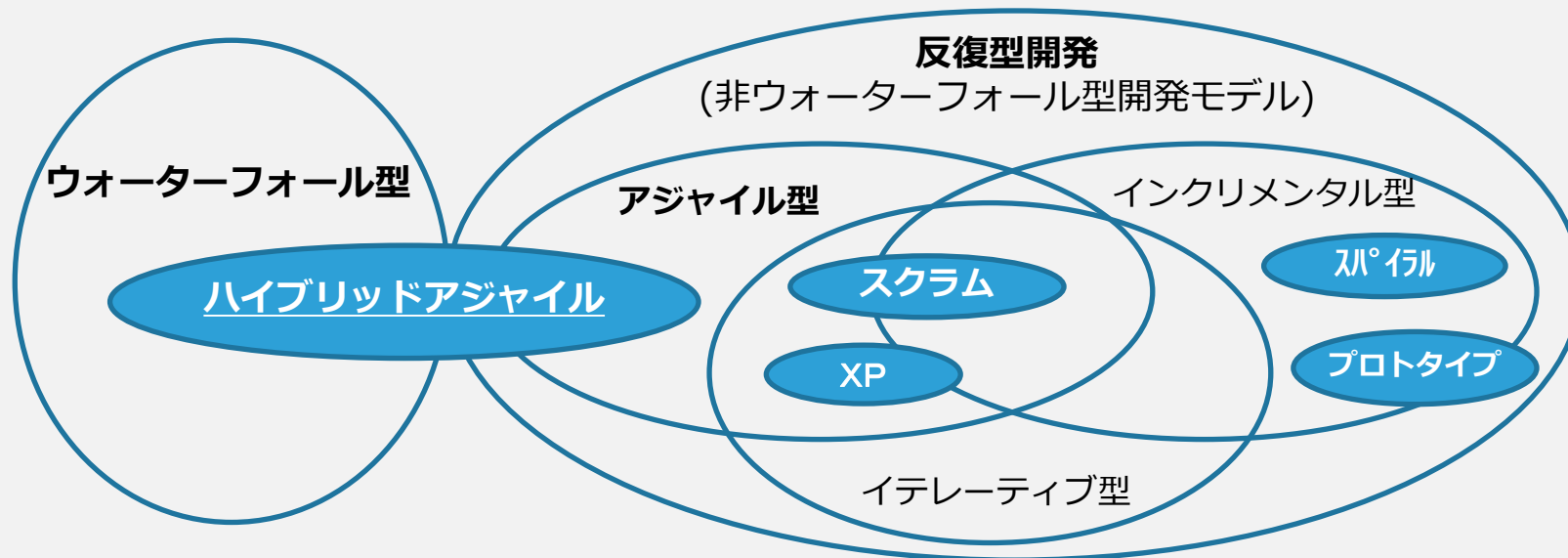
今までの産業ロボットの開発ノウハウを駆使し、
画像認識やAI、クラウド等最新技術を実装することで、
技術力の強みを発揮する製品開発に挑む。

【基幹系システムへのアジャイル適用の課題】

- 「予算化」の習慣
- 「契約」の仕方
- 「品質」に対する厳格さ
- etc ...

ミッションクリティカルな業務領域や大規模基幹系システムに、ベーシックなアジャイルプロセスを適用するのは困難

【解決策】 **複合型開発モデル(ハイブリッドアジャイル)**の検討



【豆蔵の強み】

金融、リース、損保の基幹システム刷新に
豊富な経験を凝縮した**オブジェクト指向技術**と**反復型開発を適用した成功実績**

実施した某大規模基幹系システム刷新プロジェクトの規模
〈開発期間〉 4年半 〈要員投入〉 ピーク時500名以上

中心となる事業——「AGRA」仮想データ統合

■ 金融・保険基幹システム

■ 産業ロボット開発

■ 自動運転技術

■ クラウド型自動車故障診断

【データを第4の経営資源に】

↓
活用できていないデータを分析

↓
価値のあるデータの経営資産化

■ 介護施設向け見守りシステム

■ 農業データ連携基盤構築

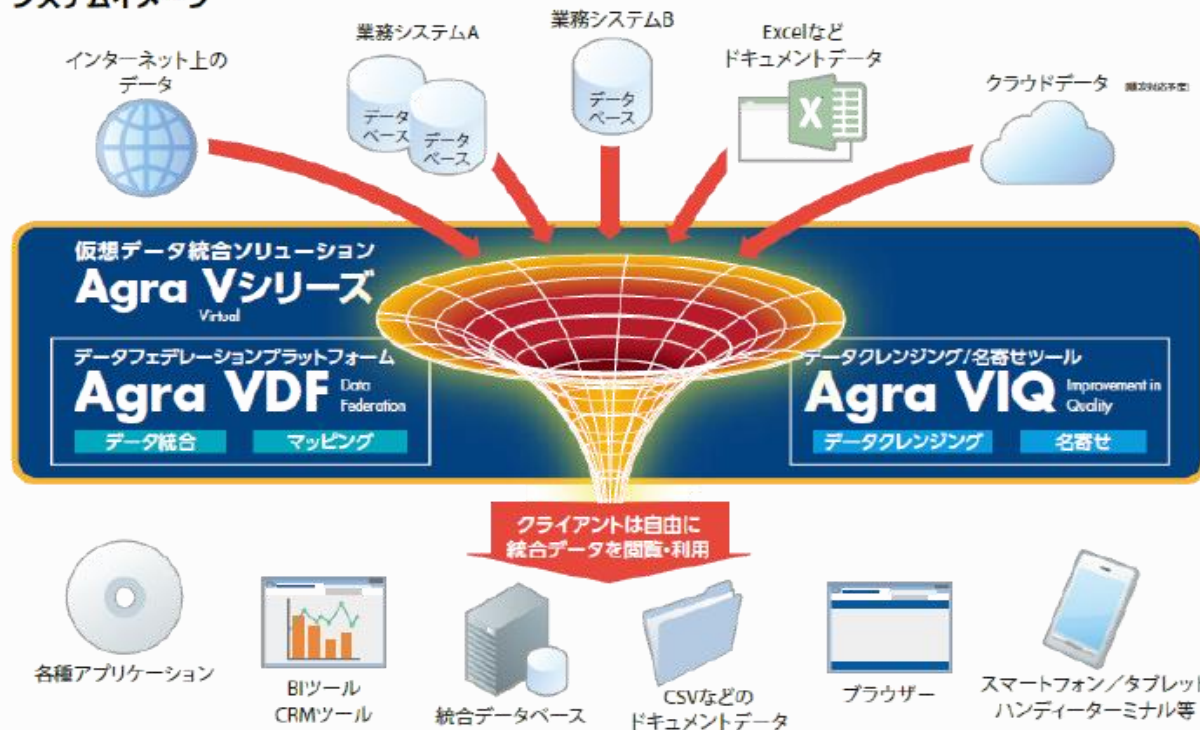
■ 音楽・映像配信

■ 製造データロギングシステム



■ 「AGRA」仮想データ統合

システムイメージ



中期戦略

- 【豆蔵のサービス、モデリング技術、分析力を活用】
- データ移行、データ統合時に最適なデータモデルを構築
 - 安価・短納期な移行・統合
 - 業界標準（最も売れている）ツール連携（会計パッケージ、Simulink、キャティアなど）

長期戦略

- 【オントロジライブラリを武器に、IoT・AI技術の普及した世の中への対応】
- 業務の自動化DB
 - 自動モデル生成（CAD、回路図、制御モデル）DB
 - AI用DB

人工知能(AI) + RPA(ロボティクス・プロセス・オートメーション) のシステム導入新サービス

～非定型領域まで業務の効率化・自動化の取組みを支援する～

RPAは、Robotic Process Automation の頭文字です。つまり、ソフトウェアロボットが、業務プロセスを自動化することを指します。ホワイトカラーの間接業務を自動化する破壊的技術です。デスクトップ上で人間がする作業をロボットが記憶することで、定型的な業務を繰り返し反復して自動化することが可能になります。また、一定のルールを覚えさせることで、基準にもとづいた判断作業も実現可能になります。

豆蔵は、RPAを人工知能(AI)と組み合わせ、適用領域を非定型業務まで広げる新しい新サービスを開始した。技術開発では九州先端科学技術研究所など大学・研究機関とも連携していく。

現状のRPA

＜適用領域＞
定型作業の自動化。
例外には人間が対応

＜使用技術＞
ルールエンジン、
画面認識げ術、
ワークフローなど

AI+RPA

＜適用領域＞
定型作業に加えて、
例外対応や非定型業務の
自動化

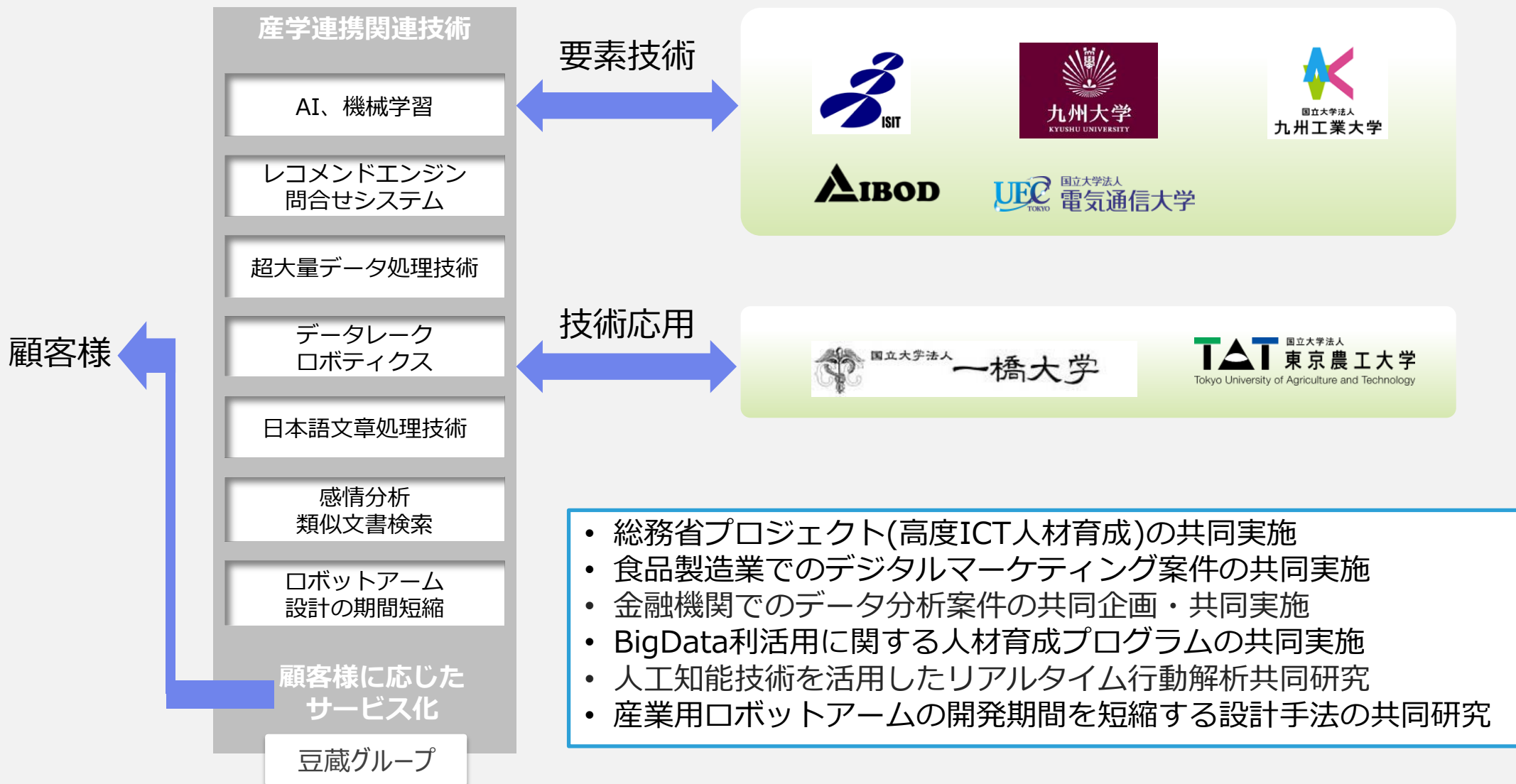
＜使用技術＞
左に加えて深層学習や
自然言語処理など

現状のRPAと「AI+RPA」

「AI+RPA」の特長：

- ⇒適用領域を非定型業務に広げる
- ⇒チャットツールをUIとして利用

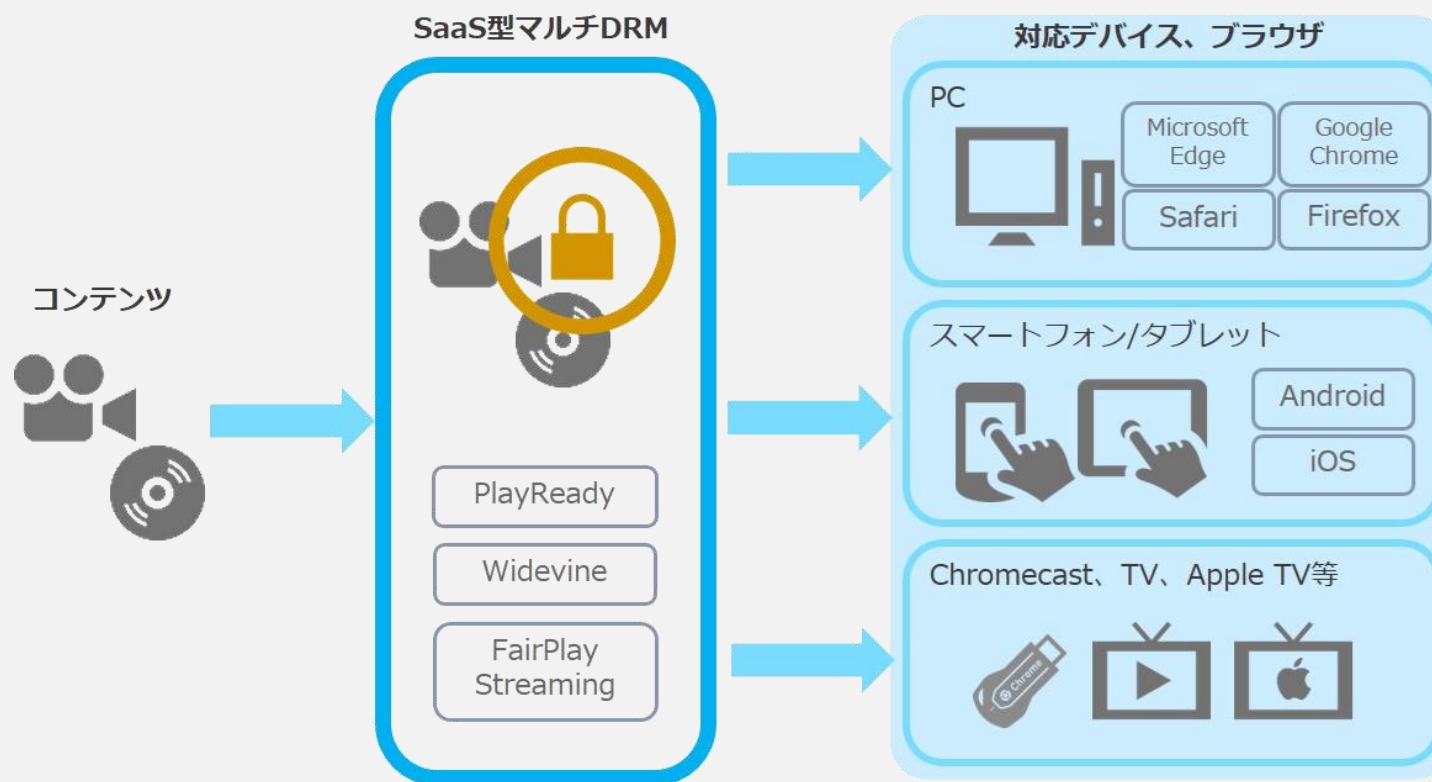
豆蔵はRPAを重要な動きだと捉えて、要求開発やアジャイル開発、AI/機械学習などの分野で、技術力に裏打ちされたコンサルティングサービスを提供できるという当社の強みを生かせる。



国内初、全主要DRM対応『SaaS型マルチDRM』の提供開始

～ユーザーの既存システムを活用し短期間・低コストでマルチDRM対応を実現～

ネクストスケープは、マルチブラウザでの配信サービスを検討しているコンテンツ配信事業者向けに国内初となる、主要デジタル著作権管理(以下DRM)全てに対応した『SaaS型マルチDRM』を2017年1月11日(水)に提供開始いたしました。『SaaS型マルチDRM』は、コンテンツ配信事業者の既存システムを活用しながら、「Microsoft PlayReady」、「Google Widevine」、「FairPlay Streaming」など主要DRM全てを利用した配信の実現が可能です。配信事業者のシステムに大きな変更を加えることがないため、マルチブラウザでセキュアなコンテンツ配信を短期間、低コストで実現します。



内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム 農業者の課題を解決する『農業データ連携基盤(データプラットフォーム)』を構築 ～データ活用型農業により、日本の農業の未来を切り開く～

昨今日本農業は熟練農家の高齢化、後継者不足といった課題を抱えております。その解決策の一つとして、ネクストスケープは、産官学と連携しデータ活用型の農業を推進・実現する『農業データ連携基盤(データプラットフォーム)』コンソーシアムに参画いたしました。『農業データ連携基盤(データプラットフォーム)』の構築は、従来農家の経験や勘といった情報をデータ化し、比較・分析する事で、農業者の生産性の向上や経営の改善を可能にする、ビックデータ時代に沿ったエビデンスベースのデータ活用型農業を世界に先駆けて推進する取り組みです。

ネクストスケープは本プログラムのアーキテクチャワーキンググループの中で中心的な役割を担い、アーキテクチャの設計及びシステムの開発に貢献しております。

農業データ連携基盤の機能

- ✓ **データ連携機能**
ベンダーやメーカーの壁を超えて、様々な農業ICT、農機やセンサー等の間のデータ連携が可能に
- ✓ **データ共有機能**
一定のルールの下でのデータの共有が可能になり、データの比較や、生産性の向上に繋がるサービスの提供が可能に
- ✓ **オープンデータ提供機能**
土壌、気象、市況など様々な公的データ等のオープンデータの整備により、農家に役立つ情報の提供が可能に

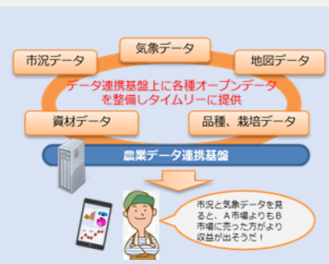
農業データ連携基盤の効果

【データ連携の効果】



- ・システムやデータが連携することによって総合的な解析が可能になり、**低収水田の位置・要因を特定**
- ・要因にあった対策を講ずることで**収量を向上**させることが可能

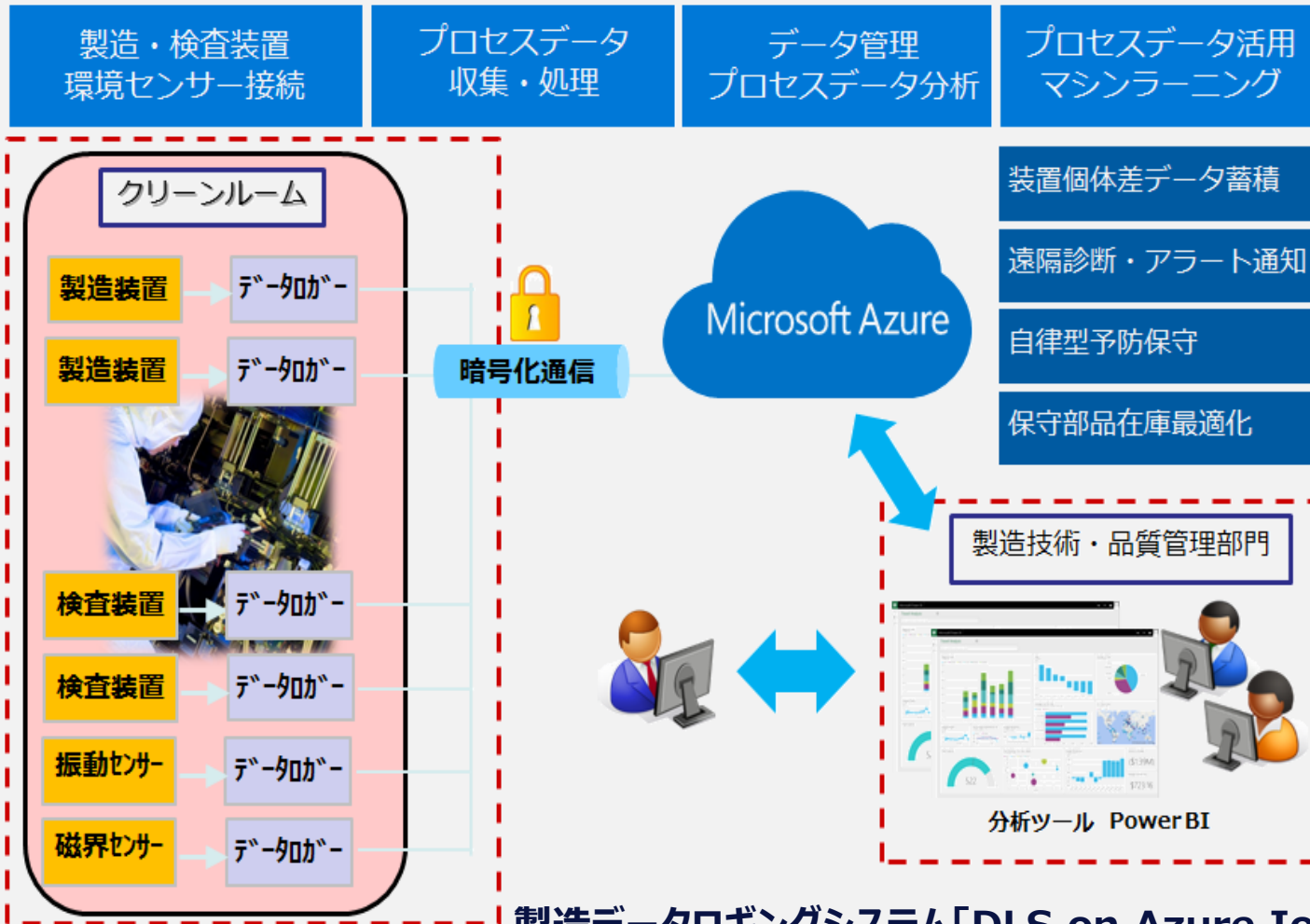
【オープンデータの活用効果】



- ・データ連携基盤上に様々な**オープンデータを整備**し、使いやすい形で提供
- ・農家は連携基盤にアクセスするだけで欲しいデータを入手可能になり、より**戦略的な経営判断が可能**に
- ・各ベンダーはデータを利用して様々なサービスを展開

ネクストスケープは、
☆ 2012/ ☆ 2013/ ☆ 2014/ ☆ 2016
Microsoft Partner of the Year・
Cloud Platform アワード受賞しました。
Microsoftのクラウドサービス プラットフォーム
Microsoft Azureに関して実績が豊富。

ジェイエムテクノロジー、Microsoft Azureを活用した製造データロギングシステム「DLS on Azure IoT」

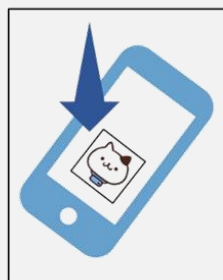
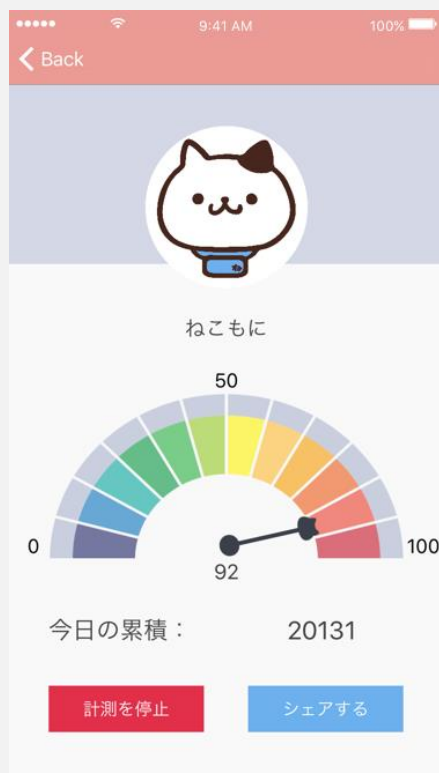


「DLS on Azure IoT」は、各種装置・センサーからの膨大なデータの蓄積、一元管理、解析機能によりデータを可視化することができます。装置状況、故障率等の傾向を把握することで、品質改善や生産性の向上を実現するばかりではなく、構築・運用コストの削減、システム保守の簡略化、データの地域分散保全等、オンプレミス上に構築されたシステムにおける諸課題を解決します。

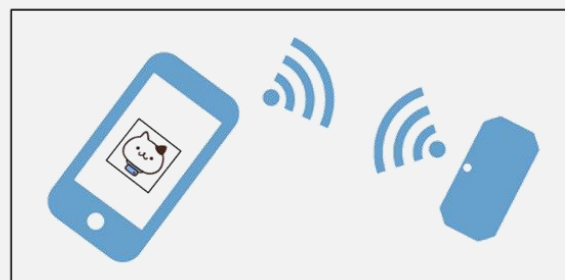
IT 技術で「迷い猫ゼロ」に貢献 ねこさがし IoT サービス「ねこもに」2017年6月19日提供開始

昨今の猫ブームによって、日本国内での飼い猫数は約985万頭に達しました。その一方で、飼育中の30%が迷い猫になり、うち約20%しか飼い主に戻りません。また、震災をはじめとした自然災害発生時には、ペット管理が不十分となるため、多くの迷い猫が発生しています。

オープンストリームは、この「迷い猫問題」に対し、IT技術・システムで解決する「ねこもに」の開発・サービス提供開始に至りました。「ねこもに」の提供によって、猫と人との共存関係向上に貢献したいと考えております。



①お手持ちのiPhoneに専用アプリをインストールします。



②専用アプリを起動し、発信機とペアリングします。



③ねこに市販の首輪などを使用して発信機を装着します。



ねこのもしもに
ねこもに

- ・Bluetooth活用した独自技術ノウハウ
- ・Amazonにてオンライン販売提供中

ねこさがし IoT サービス「ねこもに」 <https://nekomoni.com>

日本初！ マイクロソフト ホロレンズをマンション販売に採用 マンション建物の建設予定地をHoloLensで眺めると、原寸大の建物が出現

株式会社ネクストスケープは、野村不動産株式会社、株式会社プライムクロスと3社共同で、日本マイクロソフトが提供するホログラフィックコンピューター『HoloLens』を活用した新築マンション販売向けビューアーを開発いたしました。

本商品は2017年7月より販売予定の「プラウドシティ越中島（東京都江東区／305戸）」にて導入いたします。「プラウドシティ越中島」より順次採用予定。

HoloLensを活用した当システムの特長：

- 現実と仮想をミックスさせた臨場感のある「複合現実」の表示可能
 - 「建物完成イメージ」・「建物模型」の二つの機能を開発
- ①リアルサイトビューアー
 - ②ホログラフィック外観ビューアー



HoloLensを新築マンションの販売に活用する事例は「プラウドシティ越中島」が日本初となります

本資料のいかなる情報も、弊社株式購入や売却などを勧誘するものではありません。

本資料に記載されている業績予想及び将来の予測等に関する記述は、資料作成時点での入手された情報に基づき弊社で判断した予想であり 潜在的なリスクや不確実性が含まれております。

従いまして、実際の業績は様々な要因により、これらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おき下さい。

万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おき下さい。

お問い合わせ先

株式会社 豆蔵ホールディングス IR担当
〒163-0434
東京都新宿区西新宿2-1-1新宿三井ビル34F
(私書箱302)
電話 03-5339-2100
FAX 03-5339-2295
e-mail ir@mamezou-hd.com